

令和2年度スポーツ庁委託事業報告会

「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」成果報告書

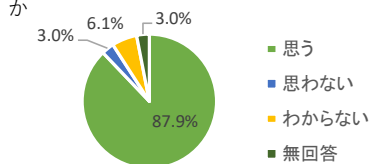
2021年4月
札幌市

現状

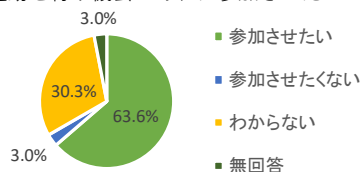
スポーツ活動に関する調査（肢体不自由のある児童・生徒の保護者対象）

保護者：自分の子にスポーツを行ってほしい

自分の子にスポーツを行ってほしいと思うか

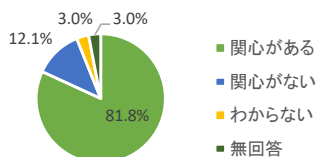


身体障がいのある子どもが集まって運動を行う機会があれば参加させたいか



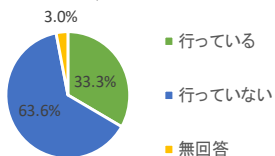
子ども本人：スポーツに関心がある

自分の子はスポーツに関心があるか

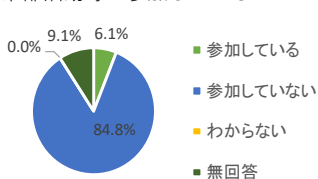


実態：スポーツを行っている子は少ない

自分の子が継続的にスポーツを行っているか



自分の子が学校の運動系部活動等に参加しているか



ギャップ

ギャップが生まれる要因

- 余暇にスポーツを行うという習慣・選択肢が無い
 - ・保護者や本人がスポーツを「気軽に楽しめるもの」、「習えるもの」と捉えられる環境にない
- 子ども対象の障がい者スポーツサークルが身近に無い
 - ・いわゆる「スポーツ少年団」に相当するものが無い
 - ・大人主体で活動するサークルには参加しづらい
- そもそも自分が夢中になれる競技が何かわからない
 - ・様々な障がい者スポーツを時間をかけて体験できる場が少ない
 - ・体験により興味を持ったとしても、継続的に活動する場や指導を受けられる場が無い

子どもたちが存分にスポーツを楽しめる環境をつくる必要

パラスポーツクラブ-SAPPOROとは？

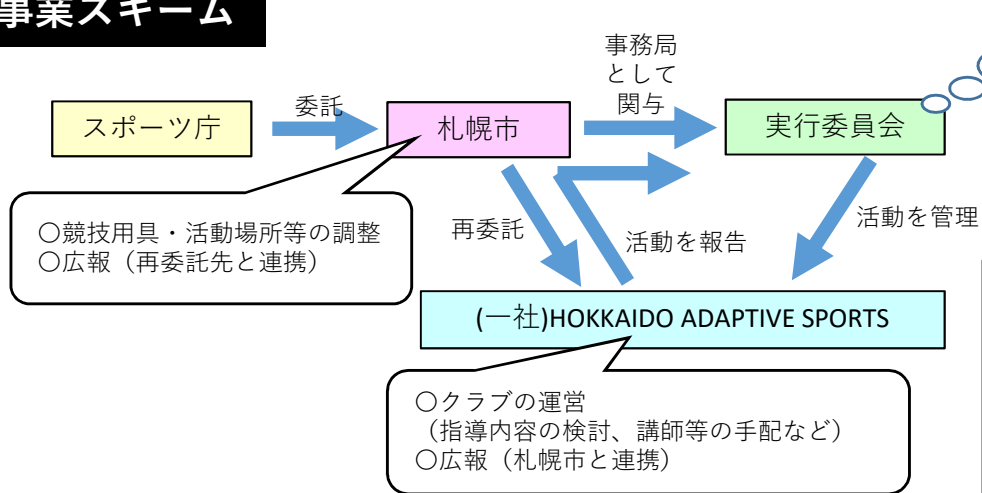
肢体不自由のある子どもたちが定期的に集まって、指導を受けながら、さまざまな競技に楽しくチャレンジできる、パラスポーツクラブ
 ※ 令和元年度より開始



目指すもの

スポーツ活動の習慣化 ⇒ **青少年の健全育成**
 スポーツを継続して楽しめる拠点づくり ⇒ **裾野拡大**
 競技スポーツの体験機会の充実 + 専門的な指導 ⇒ **競技力向上**

事業スキーム



札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会

障がい者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を図るための常設協議会
 ○札幌市主催事業について実効性向上に向けた協議
 ○市内障がい者スポーツ関係情報の共有
 を行う。

- 構成団体
- 【札幌市】 スポーツ局、保健福祉局、教育委員会
 - 【障がい者スポーツ団体】 札幌市障がい者スポーツ協会、札幌市障がい者スポーツ指導者協議会
 - 【地域スポーツ団体】 札幌市スポーツ推進委員会、札幌市体育振興会
 - 【公共スポーツ施設管理者】 札幌市スポーツ協会
 - 【教育機関】 北海道教育大学
 - 【民間企業】 北海道新聞社、北洋銀行、北海道銀行

実行委員会（札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会）開催実績

回	開催期日	場所	議題
第1回	令和2年8月21日（金）	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、書面会議	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会会長について ○<u>パラスポーツクラブ運営事業について</u> ○令和2年度事業について
第2回	令和元年11月6日（水）	新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、書面会議	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者スポーツセンター検討調査について ○障がいのある方の運動に関するアンケートについて ○令和2年度事業について（中間報告） ※「<u>パラスポーツクラブ-SAPPORO</u>」の中間報告を含む。
第3回	令和2年3月25日（水）	ORE札幌ビル9階第3会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度事業について（期末報告） ※「<u>パラスポーツクラブ-SAPPORO</u>」の期末報告を含む。 ○障がいのある方の運動に関するアンケート調査について（報告） ○その他

※ 他の札幌市主催事業とともに本事業に係る協議を実施。

事業期間

2020年9月～2021年2月
月3回程度、土曜14～16時を中心に活動

参加登録者

4～17歳の16人
※うち今年度より参加1人

主な活動場所

札幌市立みなみの杜高等支援学校体育館
(障がい者スポーツ専用の学校開放実施校)



学校開放の枠組を活用して活動場所を確保

実施競技

- ・車いすソフトボール
 - ・車いすバスケットボール
 - ・シットスキー
 - ・車いすマラソン
 - ・車いすテニス
 - ・バイスキー など
- ※ジュニア期に身体を動かすことが重要と考え、
本事業に賛同するアスリートが講師として参画



新型コロナウイルス感染対策

- ・使用用具の消毒
- ・マスクの着用
- ・こまめな手洗い
- ・入館時の車いすタイヤの消毒
- ・換気の徹底
- ・電子ホイッスルの使用
- ・対人プレイのできる限りの自粛
- ・少人数に分けての分散開催

スポーツへの関心

- ・ 多種目に触れることで、スポーツ全般への関心が増した。
- ・ 継続的な活動の場があることで、スポーツが習慣化された。
- ・ 新たに好きになれるスポーツと出会えた。



コミュニティとしての機能

- ・ 様々な年代の子ども同士が活動することで、他者との関わり方に成長が見られた。
- ・ 障がいのある子を持つ保護者同士の交流の場となった。
- ・ 養護学校教諭等とスポーツをつなぐ交流地点となった。

保護者の声

- ・ 「以前はイベントでの体験だけだったが、クラブが始まってからは、毎週のように身体を動かすことが出来ている。」
- ・ 「このようなクラブを通じて、子どもたちの笑顔が増えてほしい。」
- ・ 「本当に楽しめる場所、くやしいと思ったり、うまくなりたい、負けたくないと思ったりする場所が本当にありがたかった。」

本事業の意義 ～HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS（再委託先）の視点から～

- ・ 発育発達段階の考慮や個々人の状態に合わせた目標設定が必要なジュニア期のスポーツ活動には、多くの選択肢を提供することと、誰もが自主的に活動できるような環境整備が求められる。
- ・ ジュニア期のスポーツ環境が全国で整備されることにより、自然とスポーツ活動の普及・育成・強化へとつなげていくことができ、その先にスポーツ実施率の向上が期待できる。
- ・ 地域のスポーツ活動の充実には本事業のような、システムづくりが重要であると感じている。
- ・ 本事業モデルが一般化されることで、「運動・スポーツをやりたくてもできない」、「本当は運動しないといけないのに、環境がない」と悩んでいる方々に対応できるものと考えられる。

課題① ～指導者人材等の育成～

- ・ 障がいの知識＋競技指導技術＋コーチングスキルを併せ持つ人材の育成
- ・ ボランティアから指導者へと養成していく仕組みづくり
- ・ 継続的な実践の場の創出

課題② ～活動拠点の整備～

- ・ スポーツをしたいときに、いつでも取り組める環境の整備
- ・ 競技用具の保管場所の確保
- ・ 活動主体と支援を繋ぐ仕組みづくり

【担当】

札幌市スポーツ局スポーツ部企画事業課
障がい者スポーツ担当 戸嶋

TEL：011-211-3044

MAIL：sports@city.sapporo.jp